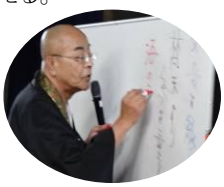
学校行事参加型＋講演会型＋在宅取組型（中学校）

学 校 名 等	関市立桜ヶ丘中学校
実 施 日 時	平成２６年１０月１１日（土）　１４：３０～１５：３０
会　　場	桜ヶ丘中学校　体育館
参 加 人 数	全校生徒＋保護者　合計６５０名
学習課題（分野）	子育て講演会「親子でつくろう　ありがとうメッセージ」
運営者の願い	親が子どもと向き合う第一歩は、あいさつ。特に、「ありがとう」の言葉は大切である。「平成の駆け込み寺」として、問題を抱える思春期の子どもを無償で預かり、子どもの自立と社会復帰を支援する活動を続けられている廣中邦充氏を講師に迎え、ありがとうの大切さを学び親子でありがとうメッセージを伝え合いたい。

学　習　の　内　容

＜あいさつ＞　役員　校長

・講演会のテーマ、「ありがとう」の言葉の大切さについて学ぶことを伝える。
・生徒が書いた「ありがとうメッセージ」の紹介。講師紹介。



＜講話＞

講師：廣中　邦充　氏（浄土宗・西居院二十一代住職）

（１）はじめのあいさつ

・満面の笑顔で、体育館を所狭しと移動し、「ありがとう」を伝えながら握手。
・「今のパパとママの子になりたい人？」「今の伴侶と、もう一度結婚したい人？」「担任の先生が大好きな人？」テンポよく質問が続き、会場が盛り上がる。

（２）自己紹介

・私が奥さんに、38年間、毎日必ず言う言葉は、「おはよう、ありがとう。」
・「ありがとう」を言う相手をたくさん思い浮かべられるようになるとよい。

（３）全国で行っている講演会やボランティアでのエピソードについて

・被災地で、6年生の子の言葉。「4人だけど、おにぎりは3人分でいい。分けて食べるから、1人分は他の人にあげてほしい。」→普段の心のぬくもりが、温かい言葉になる。

（４）闘病生活について

・余命3カ月と宣告されたが、4人の医師と多くの看護師さんとの出会いのおかげで、今も元気に活動することができる。
・「今日1日笑って過ごそう。」「何でも言って、とんでくるよ。」と言われ、「あなたがいてくれてよかった」と毎日、握手を続けた。
・よい抗癌剤との出会いで、癌が消えた。目覚めると感謝:「ありがとう」
※〇〇さんがいてくれてよかったなぁと感じる心が大切。
※保護者の皆さんは、担任の先生を好きになってほしい。
※大人に、子どもたちの心の叫びを聴いてほしい。子どもは悪くない。
※「1日1生」と思い、感謝を忘れず、毎日悔いのないように過ごしてほしい。

（５）お寺で一緒に生活をしている子どもたちについて

・逃げることは簡単だけど、前に進んでみよう。
※1歩じゃなくてもよい。勉強や友達づくりなど、あと半歩前に足を踏み出す勇気をもとう。

＜あいさつ＞　PTA学級委員長　生徒代表

・講演から学んだこと「ありがとう」の大切さについての感想。

つらかったら、いつでも電話をかけて！

＜参加者の感想＞（一部抜粋）

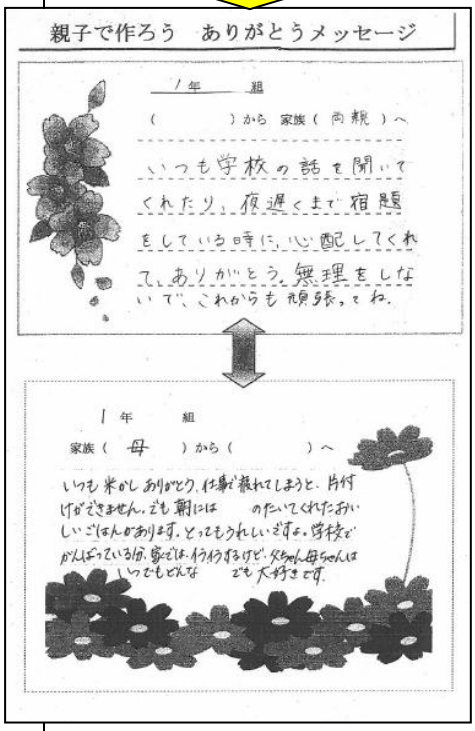
・「ありがとう」という言葉の大切さが分かり、ためになるお話を聞くことができた。
・廣中先生の大きな愛が感じられた話だった。私ももっと「ありがとう」を伝えたいと思った。
・「子どもは決して悪くない。一歩じゃなくて半歩前に踏みだそう」という言葉が心に残った。
・今日という日は、今日だけ、一日一生。同感の思いで聞いた。親子で感謝の心を大切にしたいと思った。

＜授業参観＋親子講演会＋個別懇談会＞

土曜参観日に合わせて親子講演会が開催された。

授業参観後、親子で講演会に参加。価値ある内容を組み合わせて実施し、多くの参加者が学ぶことができるように工夫した。

また、事前に、講師の先生との個別懇談の希望者を把握し、講演会後に個別懇談会を計画・実施した。

＜親子メッセージカードの活用＞

講演会の学びを、家庭で実践して広めるために、「ありがとうメッセージカード」を親子で作成して交換する取組を行った。